

穂別町立博物館報

第 2 号

(59 年 度)

穂 別 町 立 博 物 館

目 次

展 示 活 動	1
資料収集保存活動	2
調 查 研 究 活 動	4
普及教育活動	5
運 營	7

● 展示活動

I 収蔵資料展

◎ 第3回収蔵資料展「古い写真・古い文書展」

- ・ 期 間：昭和59年11月1日～11月4日
- ・ 入館者数 170人
- ・ 展示内容
寄贈された写真や文書の中から時代の古いものを展示

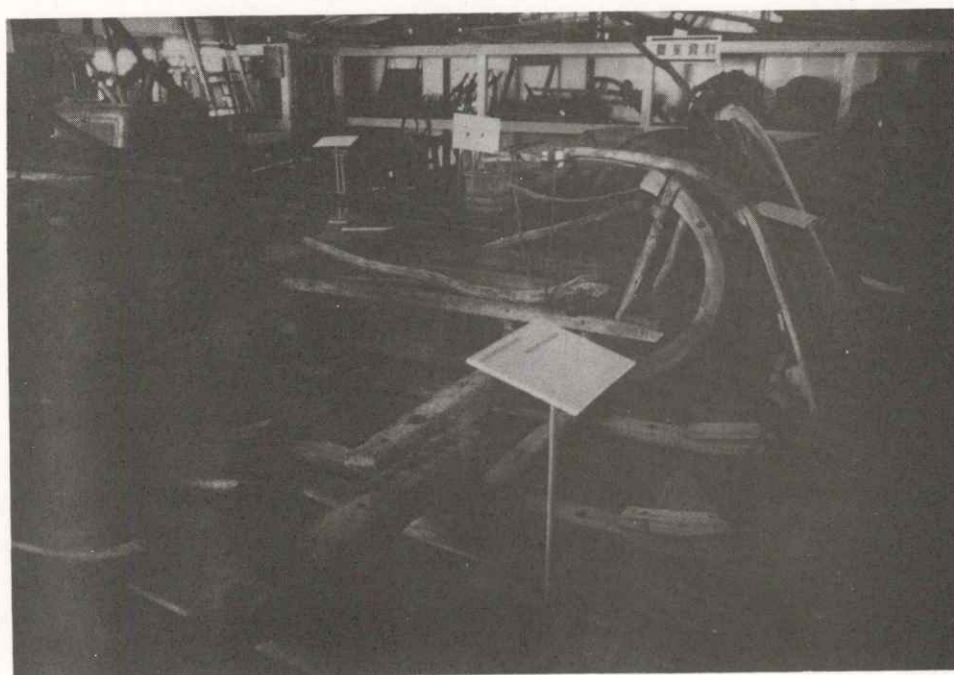
II 第二展示室

- ・ 昭和59年6月14日 完 成
- ・ 昭和59年6月27日 公 開
- ・ 展示面積 99.37 m²

収蔵資料の増加に伴い収蔵庫の増設が必要となったため、展示も兼ねた収蔵庫として、人文系の大型資料の展示を中心とした第二展示室を本館南側に増設した。第二展示室は入場無料である。

展示資料

- 生活資料 146点
- 農業資料 157点
- 林業資料 117点



● 資料収集保存活動

I 寄 贈

昭和59年4月1日から昭和60年3月31日までに寄贈された資料を受入順に記した。

〈人文系資料〉 24件 216点 (敬称略)

茶ダンスほか	(12点)	河合 昭
長火ばち	(1点)	笠巻袈裟男
ミシン	(1点)	原 芳弘
ばねばかりほか	(2点)	今 幸太郎
軍票ほか	(35点)	阿部 利春
置時計ほか	(3点)	渡部 吉樹
矢じりほか	(20点)	藤岡 勝美
採炭ツルハンほか	(2点)	佐藤 博義
古写真	(8点)	渡辺 環
湯沸かし	(1点)	三浦 イヨ
電話機	(2点)	北林 隆
樽ほか	(32点)	中沢 稔
石器	(4点)	大石 徳男
雪下駄	(1点)	佐藤 マサ
柱時計	(1点)	木村 喜作
草薙機ほか	(4点)	菊地勝太郎
ミシン	(1点)	山崎 常彰
校旗ほか	(6点)	和泉小学校
シトウケリ(わらじ)ほか	(2点)	西屋 久
木彫熊ほか	(3点)	高橋 作一
レコード	(10点)	穂別町婦人連絡協議会
鍛冶屋の道具ほか	(64点)	藤井 茂
カメラ	(1点)	鈴木 茂
〈自然系資料〉	8件 13点	
キビタキ	(1点)	渋谷 直憲
ハイタカほか	(4点)	笠巻袈裟男
サンゴ	(2点)	藤田 守
セマルハコガメ	(1点)	平山 廉
クジラ椎体ほか	(2点)	橋本 義信
ハチの巣	(1点)	佐藤 博義
ノスリ	(1点)	新 勇
哺乳類の歯	(1点)	羽矢 博次
〈自然史系資料〉	6件 38点	
玄能石	(2点)	千代川謙一
巻貝化石	(2点)	佐藤 進
アンモナイトほか	(30点)	松本リヨ子
長頸竜化石	(1点)	国分 博治

長頸竜化石	(2点)	鴨原 崇之
腕足貝化石	(1点)	入谷 寿一

II 寄 託

モササウルス化石	(1点)	福居 正高
アンモナイト化石	(1点)	上村 秀美
珪化石	(1点)	小林 繁

III 移 管

写真パネル	(15点)	穂別町役場
穂別町地形図(昭和40年)	(4点)	穂別町役場

IV 学芸員による主な採集

4月14日	平丘・大曲りの沢	函渕層群産化石
4月25日	富内鉱山	クローム鉄鉱石
4月29日	平丘・ルベシベ沢	上部エゾ層群産化石
5月12日	稲里・ソソシ沢	函渕層群産化石
5月16日	稲里・日暮しの沢	函渕層群産化石
5月17日	稲里・牧場の沢	上部エゾ層群産化石
5月23日	稲里・白船の沢	函渕層群産化石
6月13日	平丘・林道平丘線	函渕層群産化石
6月27日	平丘・ルベシベ沢	上部エゾ層群産化石
7月1日	稲里・穂別川	上部エゾ層群産化石
7月13日	町道・キウス線・石油沢	古第三系産化石・上部エゾ層群産化石
8月13日	安住・幌去川	白亜系産化石
8月18日	穂別ダム	中部エゾ層群産化石
8月30日	長和	上部エゾ層群産化石
9月13日	安住・幌去川	白亜系産化石
9月16日	キウス	函渕層群産化石
9月21日	稲里・穂別川	上部エゾ層群産化石
9月22日	ベンケオビラルカ沢	上部エゾ層群産化石
9月23日・10月4日	長和	上部エゾ層群産化石
10月10日	福山	結晶片岩
10月17.18.19日	平丘	函渕層群産化石
10月20日・11月3日	稲里	函渕層群産化石
11月11日	富内	函渕層群産化石
11月14日	稲里	函渕層群産化石

- 11月18日 ペンケオビラルカ沢
上部エゾ層群産化石
- 11月21日 平丘・パンケルサノ沢 函湧層群産化石
- 11月29日 ペンケオビラルカ沢
上部エゾ層群産化石
- 11月30日 平丘・林道平丘線 函湧層群産化石



● 調査研究活動

I 函淵層群産化石の調査研究(継続中)

穂別町富内(旧名ヘトナイ)を中心に分布する函淵層群は、以前には辺富内層群(UWATOKO and OHTATSUME 1933)と呼ばれ、上部白亜系ヘトナイ統の模式地のひとつとされていた事もある(MATSUMOTO 1942)。

本町に分布する函淵層群は海棲の化石を多産するため、当館では昭和58年度より函淵層群産化石の調査研究を行なっている。昭和59年度末までの函淵層群産化石のまとめは当館収蔵資料目録Iとして昭和60年度末に刊行予定である。

II 脊椎動物化石の研究

1. デスモスチルス化石

北海道教育大学木村方一助教授に研究委託(継続中)。一部は当館研究報告第1.2号に掲載。

2. ウミガメ化石

京都大学平山廉氏に研究委託(継続中)。一部は当館研究報告第2号に掲載。

3. 長頸産化石

香川大学仲谷英夫氏に研究委託(継続中)。一部は当館研究報告第1.2号に掲載、そのまとめは現在学会誌に投稿準備中。

4. モササウルス化石

学芸員鈴木茂が研究継続中。一部は当館研究報告第2号に掲載、そのまとめは地図研専報「海生脊椎動物の進化と適応」に掲載。

5. ウミガメ化石に共産した板鰓類化石

京都大学久家直久氏に研究委託(継続中)。

III 刊行物

穂別町立博物館研究報告第2号(昭和60年3月30日発行)

著者および論文題名(*は館外協力者)

高橋功二*・和田信彦*：穂別町の地質. 1-15.

平山 廉*・鈴木 茂：北海道穂別町の函淵層群産白亜紀ウミガメ化石について(予報). 17-30, pls. 3.

鈴木 茂：中央北海道南部の上部白亜系モササウルス化石について(予報).

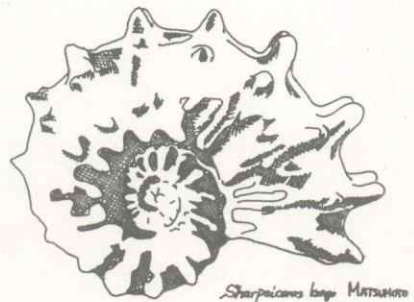
31-42, pls. 4.

仲谷英夫*：北海道穂別町より産出した長頸竜化石(HMG-1)について(予報).

43-49, pls. 1.

木村方一*：北海道穂別町産デスモスチルスについて(第2報). 51-62, pls. 7.

笠巻袈裟男*・鈴木 茂：北海道穂別町大崩れ蛇紋岩崩壊地の植物目録. 63-68.



● 普及教育活動

普及教育活動は広義には常設展・特別展をもふくみ博物館活動の重要な柱のひとつである。常設展・特別展を静的な普及教育活動とすると動的な普及教育活動を狭義の普及教育活動ととらえられる。ここで言う動的な普及教育活動とは地元の自然と文化を生かした実物による普及教育のことで、これらの実施においては活動に対する地元住民の理解と協力、そして博物館側のその地域の自然と文化、そして住民に対する理解が不可欠である。

本町には動物・植物などをふくめた自然のみならず、近代史・古代史にも理解の深い住民が多く、これらの人々の協力がなければ活動は成り立たない。博物館側は、より多くの「協力してもらえる場」を設定してゆかなければならないであろうし、普及教育活動の中での各々の事業の位置づけを、明確にしてゆかなければならないであろう。

<博物館講座>

a) 自然観察会

自然観察会は主にハイキングを中心とし、身近にみられる自然にふれあうことを目的とした「春（初夏）の野山をあるく」と標本作成など、次のステップへ進むことを目的とした「親子植物採集会」「親子化石採集会」がある。

いずれの場合でも「教える側」と「教えられる側」の両方の面で町民の協力が必要で、ともに学びながら自然に対する関心と理解を深める場となることを願っている。

「初夏の野山をあるく」 6月24日 参加7名
「親子化石採集会」 雨量の関係で化石の産出が望めず中止

b) 化石クリーニング教室

当博物館の展示の中心となっている古生物は、その研究や展示にクリーニングという作業を欠かすことができない。化石クリーニングは慣れと同時にいくつかの特殊な道具を必要とし、適切な指導が無ければ貴重な化石を破壊してしまう。

この化石クリーニング教室は1回の参加者は少ないが、町外からの問い合わせも多く、派手ではないが息の長い博物館講座として5月から10月の第1・3日曜日に開講してゆきたい。なお、要請

があればできる限り随時開講してゆく予定である。

c) ビデオ映写会

短時間のビデオについては常設展示場内のランダム・アクセス・ビデオが有効利用されているが、ひとつのテーマを掘り下げた長期間のものについては映写会の設定が必要となる。

予算の関係で新しいビデオの購入が困難な現在、映写会を数多く設定することがむずかしくなってきた。今後は博物館協会の協力を得て、穂別町にふさわしい独自のビデオをつくってゆくことが必要となってくるであろう。

5月13日、7月8日 実施 のべ12名視聴

<講演会>

少人数で運営している博物館は、どうしても事業が単調になりやすいため、館外の専門家を招いて講演してもらうなどの方法が必要となる。この場合、時期をまちがえたり宣伝が不十分だったりすると、小さな町では多くの人を呼ぶことができずに講演者に対して失礼することになってしまう。今後多くの努力が必要であろう。

「穂別にもいたデスマスチルス」

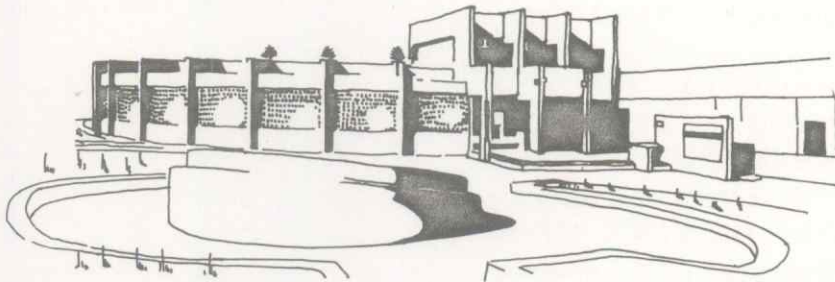
- その謎にみちた生いたちを探る—
- ・昭和60年2月11日
- ・講師 木村方一北海道教育大学助教授
- ・参加 10名

<ホッピーだより>

博物館広報誌として月刊(13~24号)。

主な内容

- 13号 博物館紹介
「化石を展示している博物館(道外)」
- 14号 日本地質学会に出席して
- 15号 化石のはなし -サマー-
- 16号 図書案内その1-化石-
- 17号 図書案内その2-化石・地質-
- 18号 図書案内その3-アンモナイト鑑定に役立つ
本-
- 19号 化石ニュース
-最近穂別町で発見された脊椎動物化石につ
いて-
- 20号 化石のクリーニング法
- 21号 新館長就任あいさつ
- 22号 牛のはなし
- 23号 穂別町で発見された謎の化石デスモスチルス
について
- 24号 博物館を考える。



● 運 営

I おもなできごと

<昭和59年度>

- 5月12日 博物館協力会総会開催
- 5月17日 占冠村助役ほか1名視察
- 5月26・27日 いわき市鈴木直氏来館
- 6月30日 札幌市教委指導班、教育研究所職員19名見学
- 7月5日 恵庭市教育委員3名視察
- 7月9日～11日 京都大学平山廉氏来館
- 7月20日 北海道大学松井愈教授、北海道教育大学木村方一助教授、東京大学犬塚則久氏来館
- 7月30日 胆振支庁地方部長ほか1名視察
広島町校長会20名見学
- 8月8日 千葉大学西田誠教授ほか4名来館
- 8月9日 恵庭市役所職員2名視察
新十津川町議会議員8名視察
- 8月11日 更別町教育委員5名視察
- 9月2日 胆振地域子供会育成研150名見学
- 9月3日 和寒町教育委員7名視察
- 9月19日 当別町教育委員7名視察
第1回博物館協議会開催
- 10月24日 今金町議会議員13名視察
- 10月26日 苫小牧青少年センター館長来館
- 10月28日 アルゼンチン、ラプラタ博物館、パスカル教授夫妻ほか3名来館
- 10月29日 厚真町教育研究理科サークル7名見学
- 11月29日 イギリス、レディング大学、ホールステッド教授、北海道大学秋山雅彦助教授、北海道教育大学木村方一助教授来館
- 12月1日 桜庭勝美新館長就任
- 12月4日 北海道立地下資源調査所高橋功二氏来館
- 12月12日 苫小牧青少年センター埋文班23名見学
- 1月26日 博物館協力会役員会開催
- 1月31日 第2回博物館協議会開催
- 2月11日 講演会「穂別にもいたデスモスチルス」開催、講師北海道教育大学木村方一助教授
- 3月20日 北海道開拓記念館北川芳男学芸部長ほか5名来館
- 3月26日 北海道教育大学村田文江氏ほか1名来館
- 3月31日 鈴木茂学芸員退職

II 組 織



●職員名簿 (昭和60年3月31日現在)

館長	桜庭 勝美
学芸員	鈴木 茂
学芸補助員	都田 哲

●博物館協議会委員 (昭和60年3月31日現在)

会長	久保田瑞真
副会長	荒木新太郎
委員	森本 信雄
〃	大洲 亮三
〃	小林 貢
〃	野坂 芳男
〃	武田 武夫
〃	田村 勝代
〃	佐藤 嗣夫
〃	中村 忠良

Ⅲ 利用状況

<昭和59年度入館者数>

月	一 般	学 生	計	開館日数
4	466	232	698	26
5	891	534	1,425	24
6	694	1,323	2,017	26
7	807	1,170	1,977	27
8	1,774	1,381	3,155	28
9	918	522	1,440	26
10	597	181	778	25
11	259	131	390	25
12	118	61	179	24
1	87	110	197	19
2	122	58	180	22
3	208	180	388	26
計	6,941	5,883	12,824	298

Ⅳ 昭和59年度決算

(単位 千円)

費 目	決 算	機 能 別 内 訳	
報 酬	2,152	維持管理費	4,977
共 済 費	235	調 査 費	206
賃 金	1,098	研 究 費	1,317
報 償 費	526	指 導 研 修 費	220
旅 費	345	施 設 整 備 費	3,956
需 用 費	6,605	教 育 普 及 費	3,942
役 務 費	452	そ の 他 経 費	4,956
委 託 料	1,141		
使 用 料 及 借 入 料	202		
工 事 請 負 費	3,900		
原 材 料 費	72		
備 品 入 費	2,687		
負 担 金 補 助 及 交 付 金	159		
合 計	19,574	合 計	19,574

Ⅴ 利用案内

- ・ 開館時間 午前9時30分～午後4時30分
- ・ 休館日 月曜日・祝日の翌日・毎月月末・年末年始(12月30日～1月6日)
- ・ 観覧料

	一 般	小中学校・高校生
個 人	200円	50円
団体(10人以上)	150円	30円

- ・ 減 免
 - 1) 穂別町立小学校及び中学校が教育計画のため入館する場合
 - 2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査、研究のため入館する場合
 - 3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合
 - 4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合
 - 5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合

穂別町立博物館館報第2号

(昭和59年度)

発行 1986年3月31日

発行者 穂別町立博物館

〒054-02

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

電話(01454)5-3141

印刷所 苫小牧市柏木町1丁目16-9

さんようプリント

